

第144回エイズ動向委員会  
委員長コメント

《平成27年第4四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成27年9月28日～平成27年12月27日までの約3か月
2. 新規HIV感染者報告数は266件（前回報告236件、前年同時期265件）  
そのうち男性253件、女性13件で、男性は前回（223件）より増加し、前年同時期（254件）より減少、女性は前回（13件）と同数、前年同時期（11件）より増加
3. 新規AIDS患者報告数は102件（前回報告103件、前年同時期117件）  
そのうち男性98件、女性4件で、男性は前回（98件）と同数、前年同時期（111件）より減少、女性は前回（5件）及び前年同時期（6件）より減少
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は368件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが188件（全HIV感染者報告数の約71%）
  - 異性間性的接触によるものが45件（全HIV感染者報告数の約17%）  
そのうち男性34件、女性11件
  - 静注薬物によるものは3件（うち、その他に計上されているものが2件）
  - 母子感染によるものは0件
  - 年齢別では、20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが63件（全AIDS患者報告数の約62%）
  - 異性間性的接触によるものが21件（全AIDS患者報告数の約21%）  
そのうち男性19件、女性2件
  - 静注薬物によるものは2件
  - 母子感染によるものは0件
  - 年齢別では、30～40代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成27年10月～12月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数（確定値）は26,783件  
（前回報告確定値22,045件、前年同時期確定値28,752件）  
自治体が実施する保健所以外の検査件数（確定値）は8,457件  
（前回報告確定値7,292件、前年同時期確定値8,817件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は35,235件  
（前回報告確定値32,313件、前年同時期確定値38,181件）

【献血の概況（平成27年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、4,909,156件（前年同時期4,999,127件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は51件（前年同時期62件）  
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、1.039件（前年同時期1.240件）

## 《まとめ》

1. 新規H I V感染者報告数は前回に比し増加したが、前年同時期と比較すると同数程度であった。また、新規A I D S患者報告数は前回とほぼ同数であったが、前年同時期よりは減少していた。
2. 新規H I V感染者は20～30代、新規A I D S患者は30～40代で報告数が多いが、いずれも10～80代までの幅広い年齢層において報告が認められた。性別・年齢を問わず、H I Vに感染する可能性がある。適切な予防策により感染を予防することが可能であり、また重要である。
3. 第4四半期は世界エイズデーを含む四半期であり、保健所等におけるH I V抗体検査件数及び相談件数は前回に比して増加した。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名H I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

## 《平成27年 年間報告（速報値）》

### 【概要】

1. 今回の報告期間は平成26年12月29日～平成27年12月27日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
  2. 新規HIV感染者報告数は990件で過去9位
  3. 新規AIDS患者報告数は423件で過去8位
  4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,413件で過去9位
- ※これまでの最高は、平成25年（確定値）でHIV感染者は、1,106件、AIDS患者484件、合計1,590件。

### 【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが681件（全HIV感染者報告数の約69%）
  - 異性間性的接触によるものが193件（全HIV感染者報告数の約19%）
  - 静注薬物によるものは8件（うち、その他に計上されているものが6件）
  - 母子感染によるものは1件
  - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが248件（全AIDS患者報告数の約59%）
  - 異性間性的接触によるものが94件（全AIDS患者報告数の約22%）
  - 静注薬物によるものは4件（うち、その他に計上されているものが1件）
  - 母子感染によるものは0件
  - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、50歳以上が約27%を占めている。

### 【検査・相談件数の概況（平成27年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は128,241件で過去9位（過去最高は平成20年177,156件）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は135,282件で過去17位（過去最高は平成20年230,091件）

### 《まとめ》

1. 平成27年は速報値ではあるが、新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は平成26年に引き続き減少した。女性の新規HIV感染者報告数は過去3年間、46件、50件、57件と数は少ないが増加傾向を示した。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路としては、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、今後の感染拡大を防ぐために重要となる。国民の皆様には、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用頂きたい。
3. 速報値ではあるが、献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年比で減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用頂きたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。